

## MOT Plus

サウンドウォーク・コレクティブ & パティ・スミス | コレスポンドンス  
2025年4月26日(土) – 6月29日(日)

国内の美術館として初となる  
現代音響芸術集団サウンドウォーク・コレクティブとパティ・スミスの  
オーディオビジュアル作品を発表

MOT Plus  
サウンドウォーク・コレクティブ & パティ・スミス  
コレスポンドンス

2025.4.26 Sat — 6.29 Sun  
Museum of Contemporary Art Tokyo



Soundwalk Collective  
& Patti Smith  
EXHIBITION  
CORRESPONDENCES

@MODE.EXCHANGE  
ORGANISED BY Museum of Contemporary Art Tokyo operated by Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture / YY Co., Ltd.  
WITH THE PLANNING COOPERATION OF MODE

世界のさまざまな場所でフィールドレコーディングされた「音の記憶」、  
パティ・スミスが書き下ろした詩、そしてそれらを増幅させる映像が交差する  
オーディオビジュアル・インスタレーション。

8つの映像が織りなす複数の物語が、原発事故や森林火災、動物の大量絶滅といったテーマを探求するとともに、芸術家や革命家を参照しながら、アーティストの役割や人間の本質を問いかける。

## 1. エキシビション概要

東京都現代美術館では、2025年4月26日から世界的な文化アイコンであり、アーティスト、詩人であるパティ・スミス（Patti Smith）とベルリンを拠点に活動する現代音響芸術集団のサウンドウォーク・コレクティブ（Soundwalk Collective）による現在進行形の最新プロジェクト「コレスポンデンス（CORRESPONDENCES）」のエキシビションを開催いたします。

アーティストのステファン・クラスニアンスキー（Stephan Crasneanski）とプロデューサーのシモーヌ・メルリ（Simone Merli）が率いるサウンドウォーク・コレクティブは、場所や状況に応じたサウンドプロジェクトを制作する現代音響芸術プラットフォームです。音の具象的かつ精神的な力を通じて物語を立ち上げ、記憶、時間、愛、喪失といったテーマを探求しています。またコンセプトや文学、芸術的テーマをもとに、写真家のナン・ゴールディン、ジャン＝リュック・ゴダールアーカイブ、振付家のサシャ・ヴァルツといったアーティストらと協働し、綿密なリサーチにもとづく作品を多数制作してきました。

ドクメンタ 14（2017年）ではラジオプロジェクト「Every Time a Ear di Soun」に楽曲を提供し、2019年にルーヴル・アブダビでサウンドインスタレーション《Mirage》を発表。さらにナン・ゴールディンを追ったドキュメンタリー映画『美と殺戮のすべて』では劇伴を手がけ、本作品は2022年のベネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞しています。また、楽曲制作も精力的に行い、数多くのレコードをリリースしています。

パティ・スミスは50年以上にわたり創作活動続けるミュージシャン、詩人、画家、パフォーマーです。デビューアルバム『ホースス』（*Horses*, 1975）は詩とロックを融合させた革新的な作品として音楽史にその名を刻み、ソニック・ユースのキム・ゴードンやPJハーヴェイに靈感を与えるなど、パンクやロックにおける表現の可能性を切り拓きました。1960年代後半からは写真やドローイングの制作を開始し、近年ではインスタレーションを手がけるなど創作活動の幅を広げています。カルティエ現代美術財団での大規模個展「Land 250」（2008年）をはじめ多くの美術館で作品を発表、その作品はニューヨーク近代美術館に收藏されています。

サウンドウォーク・コレクティブとパティ・スミスの創造的な共同制作は10年以上にわたって継続し、ベネチア・ビエンナーレ（映画部門）や、NYのクリマンズット・ギャラリー、コロンビアのメデジン近代美術館をはじめ、世界各地でライブパフォーマンス、展覧会、上映、詩の朗読会、ワークショップと多岐にわたる形式で両者のコラボレーションによる作品を発表してきました。2022年にはパリのポンピドゥ・センターで展覧会「エヴィデンス（Evidence）」を開催しています。



01 Mathilde Brandi, taken at Kurimanzutto gallery NYC 2025

本展では、かれらの最新プロジェクトとなる「コレスポンデンス」を紹介します。これまでトビリシ写真マルチメディア美術館（2023年、ジョージア）、メデジン近代美術館（2024-2025年、コロンビア）、オナシス文化センター（2024年、ギリシャ）、メンデス・ウッドDM（2025年、ブラジル）、クリマンズット

(2025年、アメリカ)を巡回してきた本企画。日本では初の公開となります。

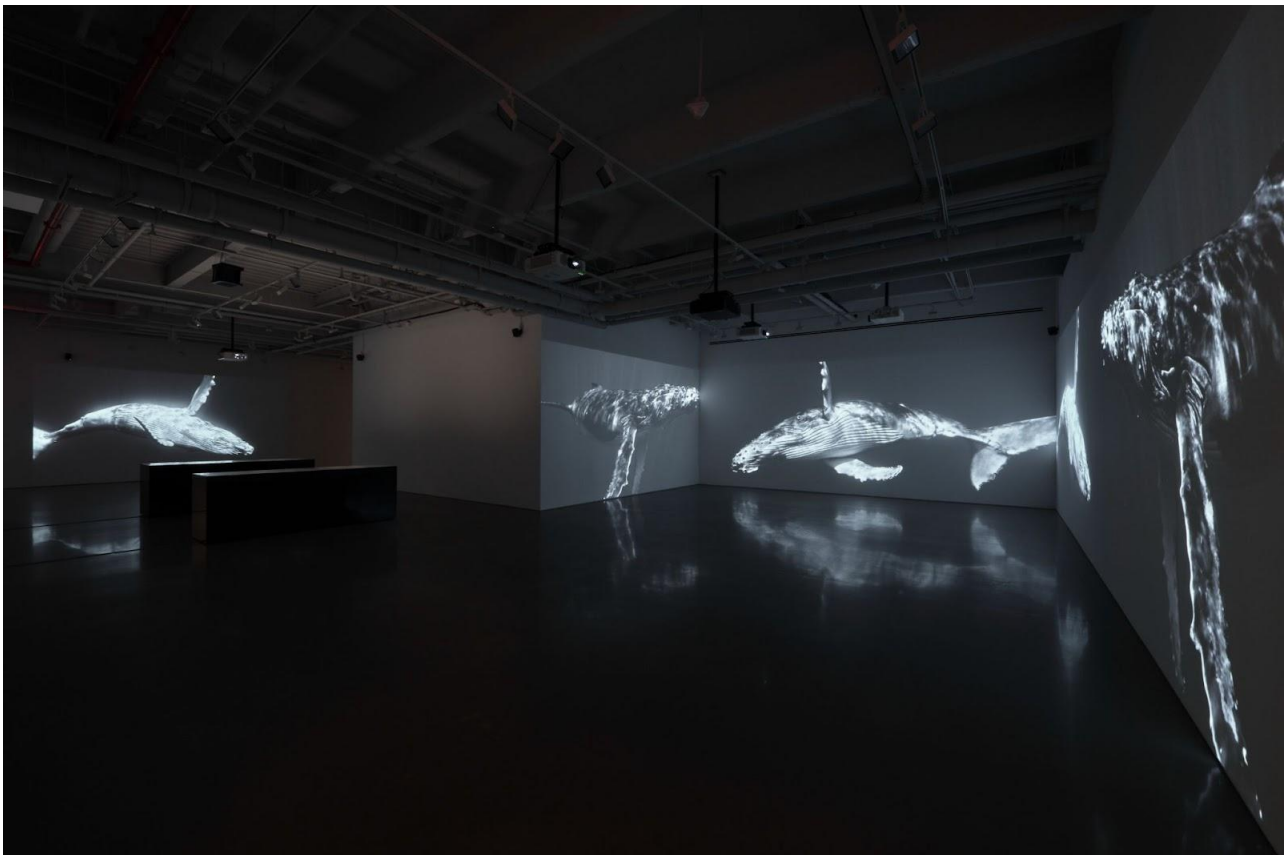


02 Mathilde Brandi, taken at Kurimanzutto gallery NYC 2025

エキシビション「MOT Plus サウンドウォーク・コレクティブ & パティ・スミス | コレスポネンセス」は、「MOT Plus」としての初の取り組みです。「MOT Plus プロジェクト」はパフォーマンスや上映など、従来の展示会の形式にとどまらない、実験的なプロジェクトを展開する場として、2025年に開館30周年となる東京都現代美術館の新企画。その第一弾の企画となる本展は、カルチュラルプラットフォーム YY との共同主催、実験音楽、オーディオビジュアル、パフォーマンスアーツを紹介するイベントシリーズ「MODE」の企画協力により開催いたします。

会期中にはサウンドウォーク・コレクティブとパティ・スミスによるアーティストトークも予定しています。申し込み方法・詳細は MODE インスタグラム、東京都現代美術館ウェブサイトで順次公開いたします。

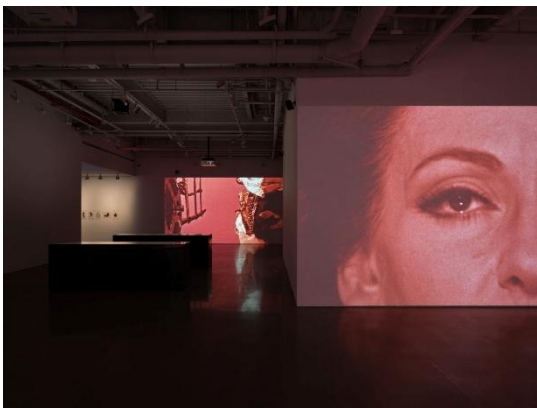
## 2. 「コレスポネンセス」について



03 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto

「コレスポンドンス」はサウンドウォーク・コレクティブとパティ・スミスによる10年以上におよぶ協働プロジェクトであり、かれらが現在まで交わしてきた“対話”から生まれた作品です。現在進行中で絶えず進化し続けるこの協働プロジェクトは、さまざまな土地の「音の記憶」を呼び起こし、芸術家や革命家、そして気候変動の継続的な影響の足跡を体現しています。

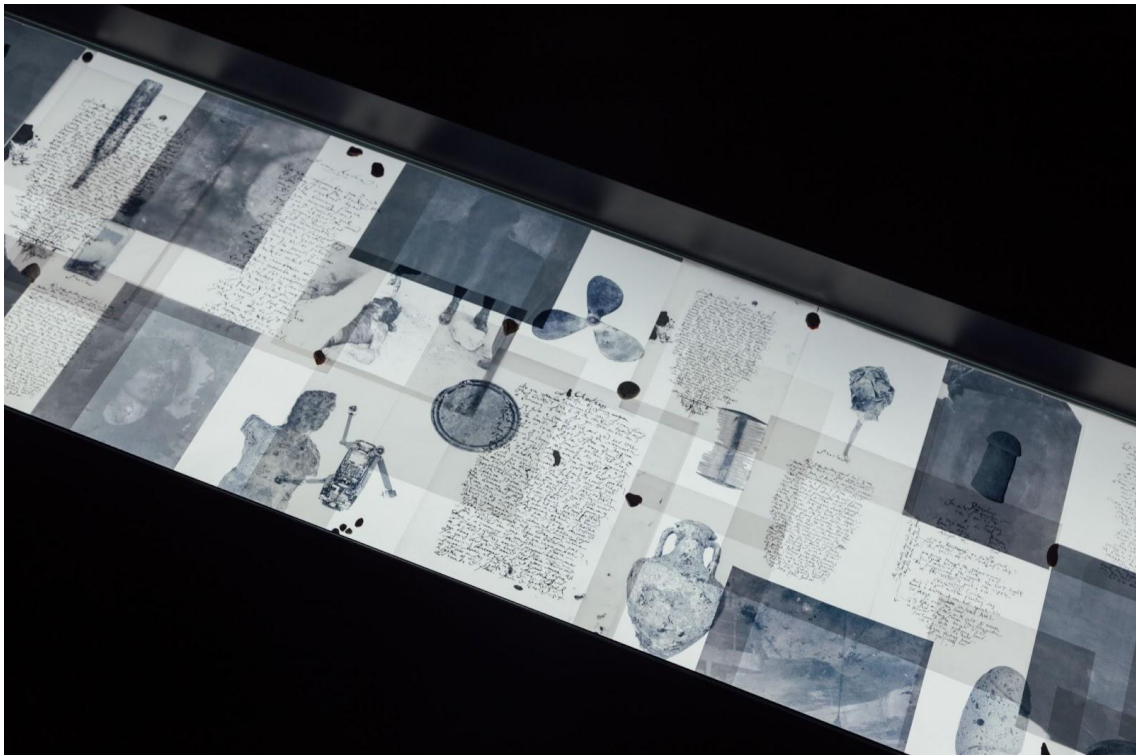
ステファンが詩的な靈感や歴史的な重要性をもつ土地を訪れフィールドレコーディングによって「音の記憶」を採集し、パティがその録音との親密な対話を重ねて詩を書き下ろし、さらにそのサウンドトラックに合わせてサウンドウォーク・コレクティブが映像を編集します。こうした“往復書簡(=コレスポンドンス)”によって生まれたのが、本展の根幹を成す8つの映像《Pasolini》《Medea》《Children of Chernobyl》《The Acolyte, the Artist and Nature》《Cry of the Lost》《Prince of Anarchy》《Mass Extinction 1946-2024》《Burning 1946-2024》です。



04 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto



05 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto



06 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 工藤・内堀・大塚  
TEL：03-5245-1134（直通） / FAX：03-5245-1141  
E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は都合により変更になる場合がございます。ご了承ください。

これらの映像は本会場に合わせて構成されたオーディオビジュアル・インスタレーションとして展示され、展示空間全体をサウンドウォーク・コレクティブのフィールドレコーディングとサウンドデザイン、パティ・スミスの声で包み込み、観る者を合計約2時間の没入型体験へ誘います。それぞれに異なるテーマをもつ8つの映像は、複数のスクリーンに投影され、映像同士の対話や、展示内のほかのインスタレーションとの相互作用を生み出します。

映像のインスピレーション源と制作過程で行なわれたリサーチの蓄積を示すライトボックスでは、パティ・スミスによる直筆の詩やファウンド・オブジェのスキャン画像、ドローイング、写真、科学的データ、手書きの原稿や歌詞を展示し、サウンドウォーク・コレクティブとパティ・スミスによるリサーチと対話の視覚的洞察を提供します。

「コレスポンデンス」は、チェルノブイリ原発事故や森林火災、動物の大量絶滅といったテーマを探求するとともに、アンドレイ・タルコフスキー、ジャン＝リュック・ゴダール、ピエル・パオロ・パゾリーニ、ピョートル・クロポトキンといった芸術家や革命家を参照しながら、人間と自然の関係やアーティストの役割、人間の本質について問いかけます。

### 3. 本展の見どころ

#### 1) 貴重な映像素材

本展の映像は、アンドレイ・タルコフスキーの『アンドレイ・ルブリョフ』や、マリア・カラスがギリシャ悲劇の王女を演じたピエル・パオロ・パゾリーニの『王女メディア』（Cinemazero 提供）、殺害されたイタリアの巨匠ピエル・パオロ・パゾリーニ最期の日を描いたアベル・フェラーラの『パゾリーニ（原題）』といった映画の貴重な未公開映像のほか、NASAの衛星写真、研究財団TBA21-Academyとの協業により可視化した海洋データ、さらにはジャン＝リュック・ゴダールの肉声を使用し、編集されています。



07 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto



08 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto

## 2) パティ・スミスによる最新の表現

ビジュアルアーティストとしてキャリアを開始したパティ・スミスは、詩とロックを融合させた革新的なデビューアルバム『ホースス』以来、半世紀にわたり表現の新しい地平を切り拓いてきました。1960年代後半から制作を続けている絵画と写真に加え、2010年代からはインスタレーション作品にも創作の幅を広げています。80歳を目前に控えた今、パティはサウンドウォーク・コレクティブとの協働により、新しいオーディオビジュアル表現を生み出しました。フィールドレコーディングに耳をすませて書き下ろした力強い言葉は、その土地の“音の記憶”を増幅させ、わたしたちが見つめるべき世界のビジョンを提示します。

## 3) 日本で滞在制作する新作

世界各国を巡回する「レスポンス」は、開催地ごとに新しい作品を制作し、サイトスペシフィックな展示をすることで、つねにかたちを変え続けています。これまでジョージア、コロンビア、メキシコ、アメリカなどで滞在制作を行ない、その土地の歴史や文化的風景と結びついた作品を通じて、観客とのあいだに多層的な応答関係を築いてきました。今回はサウンドウォーク・コレクティブとパティ・スミスが日本の協力者とともに滞在制作をし、本展で新作として発表します。

## 作家プロフィール

### サウンドウォーク・コレクティブ

(Soundwalk Collective)

サウンドウォーク・コレクティブは、アーティストのステファン・クラスニアンスキーとプロデューサーのシモーヌ・メルリが率いる現代音響芸術コレクティブ。アーティストやミュージシャンとの共同作業により、コンセプトや文学、芸術的なテーマを検証するために、場所や状況に応じたサウンドプロジェクトを展開。パティ・スミスや映画監督のジャン＝リュック・ゴダール、写真家のナン・ゴールディン、振付家のサシャ・ヴァルツ、女優で歌手のシャルロット・ゲンズブールといったアーティストたちとの長期的なコラボレーションを行なう。彼らの実践はアートインスタレーション、ダンス、音楽、映画と多岐にわたり、音を詩的で感触を伴う素材として扱うことで異なるメディアを結びつけ、複層的な物語を創造することを可能にしている。2022年のベネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞したローラ・ポイトラス監督の『美と殺戮のすべて』ではオリジナルサウンドトラックを制作した。これまでポンピドゥ・センター（パリ）、ドクメンタ（カッセル）、クンストヴェルケ現代美術センター（ベルリン）、ニューミュージアム（NY）などで展示やパフォーマンスを発表している。



09 Photo by Vanina Sorrenti B

## パティ・スミス

(Patti Smith)

パティ・スミスは1946年シカゴで生まれ、ニュージャージー州南部で育ったのち、1967年ニューヨークに移住。詩とロックを融合させた革新的なアルバム『ホースス』(Horses, 1975)でデビューして以来、数々のアーティストやミュージシャンに影響を与え、世界的な文化アイコンとして知られる。音楽、著作、パフォーマンス、視覚芸術における業績は各分野で高く評価されており、グラミー賞に4度ノミネートされたほか、『ホースス』は米国議会図書館の国家保存重要録音物登録簿に登録されている。また写真や絵画、インスタレーションを手がけるアーティストとしても活躍し、世界中のギャラリーや美術館で展示を行なっている。著作に全米図書賞を受賞したベストセラー回顧録『ジャスト・キッズ』のほか、『ウルギャザリング』『Mトレイン』『無垢の予兆』など多数。2020年にペン/フォークナー賞を受賞し、コロンビア大学から名誉博士号を授与。2022年には彼女の生涯の業績を称えて仏レジオンドヌール勲章を受勲した。



10 Photo by Jesse Paris Smith

## 基本情報

展覧会名 MOT Plus サウンドウォーク・コレクティヴ & パティ・スミス | コレスポンド  
会期 2025年4月26日(土) - 6月29日(日)  
休館日 月曜日(5月5日は開館)、5月7日  
開館時間 10:00 - 18:00 (展示室入場は閉館の30分前まで)  
観覧料 一般 1,800円 / 小学生以下無料  
会場 東京都現代美術館 企画展示室 B2F  
共催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館、株式会社 YY  
企画協力 MODE  
協賛 Audio-Technica / Analogue Foundation  
問合せ 03-5245-4111 (代表)  
担当学芸員 事業企画課 企画係 権祥海

## 関連プログラム

4月26日にアーティストトークを予定しています。申し込み方法・詳細は MODE インスタグラム、当館ウェブサイトにて順次公開いたします。

## 同時期開催

MOT Plus 「ハン・ネフケンス財団との共同プロジェクト シャハナ・ラジャニ」 企画展示室 B2F  
企画展 「岡崎乾二郎」 企画展示室 1F/3F  
コレクション展 「MOT コレクション」 コレクション展示室

### 「コレスポンド」パフォーマンス

本展の会期中に「コレスポンド」のライブ公演が京都と東京で開催されます。

#### 【京都公演】

KYOTOPHONIE in collaboration with MODE サウンドウォーク・コレクティヴ & パティ・スミス | コレスポ  
ンド

公演日時 2025年4月29日(火・祝)  
【昼公演】 12:00 開場 / 13:00 開演  
【夜公演】 16:30 開場 / 17:30 開演

会場 ロームシアター京都 サウスホール (〒606-8342 京都府京都市左京区岡崎最勝寺町 13)  
主催 一般社団法人 KYOTOPHONIE / MODE / 株式会社 YY  
ウェブサイト <https://kyotophonie.jp/>  
問合せ KYOTOPHONIE 事務局 info@kyotophonie.jp

#### 【東京公演】

MODE 2025 サウンドウォーク・コレクティヴ & パティ・スミス | コレスポンド

公演日時 2025年5月3日(土)  
17:00 開場 / 18:00 開演  
会場 新国立劇場 オペラパレス (〒151-0071 東京都渋谷区本町 1-1-1)  
主催 MODE / 株式会社 YY  
助成 公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京 【芸術文化魅力創出助成】  
ウェブサイト <https://mode.exchange>  
問合せ MODE info@mode.exchange



## 広報図版の貸出について

広報用図版として10点をご用意しております。貸出をご希望の方は、下記の貸出条件をご確認の上、必要事項とあわせて図版番号をメール ([mot-pr@mot-art.jp](mailto:mot-pr@mot-art.jp)) にてご連絡ください。

### 必要事項

御社名／ご担当者名／貴媒体名（ジャンル）／発売・放送予定日

### 貸出条件

- 画像には作品情報（作家名・作品名・制作年・コピーライト等）を併記してください。
- 画像のトリミング、文字載せ、編集はご遠慮ください。
- 記事の掲載前に校正原稿をお送りください。また、記事の掲載後には掲載誌（紙）、ウェブサイトの URL、DVD、CD 等をお送りください。
- 画像データの二次使用はお断りしております。使用後はかならずデータを削除してください。

### 広報図版 作品クレジット一覧

- 00 メインビジュアル
- 01 Mathilde Brandi, taken at Kurimanzutto gallery NYC 2025
- 02 Mathilde Brandi, taken at Kurimanzutto gallery NYC 2025
- 03 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto
- 04 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto
- 05 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto
- 06 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto
- 07 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto
- 08 Soundwalk Collective & Patti Smith 'Correspondences' - kurimanzutto NY (installation view), courtesy of kurimanzutto
- 09 Soundwalk Collective Photo by Vanina Sorrenti B
- 10 Patti Smith Photo by Jesse Paris Smith